

山形県現代俳句協会会報

第26号
令和4年7月

やや、光が差しして…

山形県現代俳句協会会長 大類つとむ

コロナ禍による異常な世相を数年経て、引ぎつづき会長の任をつとめさせて頂く事となりました。役員の顔ぶれもやや替わり、忙しいお役目は比較的小さい方をお願いする事といたしました。これまでさまざまにご尽力くださった方々にこの場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

父林一が会長の頃、その傍らにあった為かこの会のさまざまな事を何とか務めさせて頂きました。その三十余年を今振り返ってみると、その頃からの方々のお顔は殆どなく、今こそ新たな取り組みを進めて行くべき時と強く考えております。

コロナ禍による停滞した世の動きも俳壇の進展も、ここに来てやっと光が差しつつあるようです。俳句はどんなものもどんな事も詠めないものは無いと言われます。しかし「花鳥諷詠」を直訳してしまうと、大戦も核も天災もウクライナもその対象には相応しくないように思われがちです。しかしそれらのすべては人間の英知と愚かさの所業です。加藤楸邨は「句の中に人間が生きていることを第一に重んずる」と説き、私の師田川飛旅子は「傷のない者は詩を作るな」と言い「俳句はおかしみである」と私たちに語

りました。

コロナ禍をはじめとした重く暗い事実をしつかりと見据え、それをしっかりと「俳句」(詩)としていく事こそ、いつも、いつまでも最も大切な事と思わずにはいられません。

協会の運営はとても大切なことです。しかし私たちが作家集団である事を片時も忘れてはなりません。当会がおひとりおひとりの作句詩興に少しでも力となるには何をすれば良いのか、どうすれば有意義かを皆んなで考えて行きたいと思っています。

俳句は句会が基本であると思っていますが、私はとりわけて吟行が大好きです。物見遊山ではなく私たち俳句を能くする者こそ「吟行」です。言うまでもなく見る、聴く、嗅ぐ、触れる、食するの五感に加え、創るという独特の世界にゆったりと身を置く素晴らしい時間です。屋内での勉強会もその内容によつては得がたいものとなる事は間違いないと思います。合わせて吟行会にも大いに力を入れてゆきたいものです。俳句界に限らず会員の減少と高齢化はあらゆる集いに共通した直面する大きな課題です。それ等にしっかりとした対処法を考えつつ、少しでも多く俳句に費やす時間があればと思います。

役員の方々のご尽力と会員の方々のご理解ご協力を心よりお願い致します。

現代俳句の秀句を読む 3

三月の甘納豆のういふいふ 坪内稔典

二〇一〇年十月刊『俳句のユーモア』の中に掲載されている。甘納豆を題材とした一月から十二月までの十二句のうち、「一月の甘納豆はやせてます」二月には甘納豆と坂下る」に続く一句。声に出して読んでみるとひとりで心がほころんでくる。小学生にも人気があると書かれているとおり、リズムカルで覚えやすい。

私の学生時代からの友が十年程前に突然の病にかかり、一命はとりとめたものの右半身が思うように動かなくなってしまう。彼女は懸命にリハビリに励み、左手で文字を書き、絵手紙を送ってくれるようになった。その便りの中に「楽しいことを考えながら過ごすようにしている。」との一言があった。励ますつもりで手紙を書いている私の方が元気をもらっていることに気付いた頃にこの句に出会ったのである。

また、この句は、河北町出身の細谷亮太氏(俳号 唳々)のエッセイ集『生きるために、一句』にも採り上げられていた。小児がん専門医である細谷氏の日常の中には悲しい場面も数多くあったと思われるが、氏がこの句で救われたのかもしれないと勝手に考えている。

俳句には諧謔という一面があるという程度のことには知っていたが、実際に、ユーモアあふれる句が生活に潤いをもたらしてくれている。身の回りの小さな変化に喜びを見つけて一句にしようとするのがよくあるのも、前述の友の言葉とこの句のおかげとされている。

(飄逸の会 井上康子)

県現代俳句協会総会俳句会

6・12 山形テルサ

- 1 菖蒲聳く習い伝えて過疎の村 畠山カツ子
- 2 藤の花三千世界みな浄土 //
- 3 子らの声足元泥濘る田植えかな 阿部 雅子
- 4 時間差の枝豆配す構図なり //
- 5 初画像の鼻のレントゲン五月雨るる //
- 6 遠き日のロシア民謡花りんご 瀬野 史
- 7 地下壕の子ら白日へこの日 //
- 8 泥落とす学生支援の残り葱 //
- 9 緑さすピカソ掲げしこども部屋 大類 響子
- 10 母の日の綿あめいつもふわふわと //
- 11 参道を口げんかして薄暑かな //
- 12 芍薬の彩り添えし離れの間 松浦 廣江
- 13 滝しぶく記念の切手選び抜く //
- 14 テレフォンカードの金の造型山笑う //
- 15 沢蟹の泡の言葉聞き逃す 須藤 結
- 16 振り出しに戻るは論しかき氷 //
- 17 日高見の風恋しきや鉄風鈴 //
- 18 ダム底の数多の声や大噴水 渡辺 竹女
- 19 カタカナ語脳を素通り梅雨の川 //
- 20 梅雨明けや青の絵の具を買い占める //
- 21 陽を包み風をつつみて白牡丹 小林美代子
- 22 去年今年読み書きという力業 //
- 23 緑蔭に入りて人みな哲学者 //
- 24 螢火や終生出羽に住むつもり 柏崎 青波
- 25 墓地へ下りゆく妙齢の白日傘 //
- 26 冬の蠅なれば殺意もおいらざる //
- 27 残雪に力まだある花きぶし 工藤 博司

- 28 空港の店にはしりのさくらんぼ 工藤 博司
- 29 戦火のたび覚える地名戻り寒 //
- 30 全身にくちびる付けて赤椿 黒谷博楽子
- 31 スマホから娘へ手振る春の夜 //
- 32 新品の鉛筆鬩を挙ぐ春夜 //
- 33 接骨木の花ころろと揚げあがる 津田よね子
- 34 かたかごや白鳥十郎長久公 //
- 35 葉桜やカステラ底紙刮け取る //
- 36 日向にはみどりのベンチ昭和の日 大泉 秀明
- 37 トラクター続けて抜いて風薫る //
- 38 青空へ駆け行く丘や子供の日 //
- 39 五月の夜夢とうつつを行き来して 大志田勇志
- 40 ほととぎす人は戦争くりかへし //
- 41 人の世のことはさておき新樹光 //
- 42 新調の鯉幟大きく家名入り 井上 康子
- 43 夏立つや短編小説読みさしに //
- 44 白木蓮空手有段の師でありき //
- 45 もやもやを打ち払はむと草むしり 堀 尚子
- 46 だれも居ぬ家にただ今薄暑かな //
- 47 青嵐人物デッサン線太く //
- 48 万緑や茂吉の山河事も無き 木嶋 玲子
- 49 風薫る葉擦れやさしき山路かな //
- 50 万物の理を知る立夏かな //
- 51 キヤッチボールを祖父に緩めて野球の子 東海林光代
- 52 訃報受くりラの花房折れそうで //
- 53 麦秋や国境に火種は尽きず //
- 54 太古より腰かがめ採るゴゴミ旨し 新野 祐子
- 55 血塗られた聖五月などあるものか //
- 56 雪溪に黒煙の塵堆く //
- 57 芽吹して大樹は鳥の籠となり 阿部 貴美

- 58 土地訛尻上がりして春おもろ 阿部 貴美
- 59 せせらぎの緑もむ風唄となり //
- 60 慈雨沁みてゆく畑にも私にも 佐竹 伸一
- 61 子らは皆お散歩が好き若葉風 //
- 62 風船をつく雨雲の消ゆるまで //
- 63 離陸して桜桃狩りを見下ろせり 大類つとむ
- 64 茂吉の部屋に盗人ありと夏初め //
- 65 三つ目の駅へ見にゆく百日紅 //

【選句結果】 特選2点 入選1点

五句句	29		(入5)
四句句	6		(特1 入2)
三句句	18		(特1 入1)
二句句	5		(特1)
二句句	15		(入2)
一点句			(入1)

【特選句作品鑑賞】

5 初画像の鼻のレントゲン五月雨るる 阿部雅子
 始めて見る鼻のレントゲン写真に、作者は驚きを隠せない。中心の鼻腔から両耳、口腔、咽頭に繋がる骨格は複雑で精緻な構造物である。恐らく作者の何らかの疾患が治癒して、いわゆる「通りが良くなった」状態は、季語の「五月雨るる」に呼応して美しい。「五月雨るる」を人体の上に持ってきた試みは新鮮である。 東海林光代

6 遠き日のロシア民謡花りんご 瀬野 史

田舎者が大都会に仕事に出た頃、飲み物一杯で二時間過ごせた歌声喫茶。集まるのはほとんど同世代で、ロシア民謡や教科書で習うような曲を歌っていた。作者にとつて「花りんご」は青春のシンボルなのだろうか。その頃はウクライナの戦争など夢にも思わなかった。

世界を巻き込む戦争は一日も早く終わらせた
い。 松浦廣江

16 振り出しに戻るは諭しかき氷 須藤 結

中七まで読むと、どうしてもネガティブな思いが強くなるのが常だろうが、「かき氷」がこの句を明るく優しくしている。具体的にどんな事かは二の次で肝心な「ふりだしにもどる」と「かき氷」の関わりであろう。「愉し」と「かき氷」がや、即く感はあるが、それ以上に平明簡潔で類想もないのが何より佳い。 大類つとむ

17 日高見の風恋しきや鉄風鈴 須藤 結

日高見の国とは、古代の蝦夷の地の一部であり、北上川下流域とされる。岩手県から宮城県に流れている北上川の語源が日高見である。

日高見が作者の故郷であることは上五中七で明らか。となれば、風鈴は南部鉄器ということになる。故郷を離れての暮らしを彩る南部鉄器の風鈴。風鈴を鳴らす風は、故郷の日高見の風ではないが、風は風を呼び、日高見の匂いを届けてくればしまいか。その思いが、中七の強い詠嘆となっている。鉄風鈴は、作者の思い出と今の暮らしを、やさしく奏で続けていくに違いない。 佐竹伸一

18 ダム底の数多の声や大噴水 渡辺 竹女

あるダム湖の記念館を訪問した。ダムに沈む前の、豊かな自然の中で生き生きと暮らす人々の姿が、沢山の写真の中に見出された。ダムは本当に必要だったのだろうか、移転した人々の心境は？多くの犠牲の上に成り立つ現代社会の有り様を、改めて考えさせられた。 新野祐子

20 梅雨明けや青の絵の具を買い占める 渡辺竹女

青の絵の具にはたくさん種類がある。すぐ、五種類ぐらいの絵の具の色と名前が頭に浮かんだ。作者が絵の具を買い占めたのではなく、瑞々しい梅雨明けの山河を表したのであろう。自然界には数えられないほどの青の絵の具があふれている。「買い占める」に充足感があり、この頃の鬱陶しい世の中をしばし忘れそうになる。 堀尚子

24 螢火や終生出羽に住むつもり 柏崎 青波

自分は杜の都仙台に生を享けたものの、父の転勤で佐賀や名古屋、そして十歳にして山形の人となる。それからはこの地に根を張って暮らす。そんなことから共鳴した次第。

螢火がほつとさせる。出羽山河が益々愛しい。

木嶋 玲子



令和四年度山形県現代俳句協会総会

令和四年六月十二日、山形テルサに於いて総会が開催されました。

○令和三年度決算

項目	予算額	決算額	増減	備考
繰越金	284,961	284,961	0	
会費	68,000	0	△ 68,000	3年度徴収せず
本部助成金	41,040	45,540	4,500	1,800×24名 43,200 前年度分 1,800×1名 新規割引 540×1名
雑収入	2	2	0	郵便貯金利息
合計	394,003	330,503	△ 63,500	

支出の部

単位:円

項目	予算額	決算額	増減	備考
事業費	98,500	59,354	△ 39,146	会報25号発行 6,006 紙上句会選者謝礼 30,000 通信、印刷費他 23,348
東北大会費用	25,000	0	△ 25,000	県負担金、交通費なし
他団体への助成	6,000	6,000	0	県少年少女俳句大会 6,000
予備費	260,000	0	△ 260,000	
雑費	4,503	0	△ 4,503	
合計	394,003	65,354	△ 328,649	

収入 330,503 支出 65,354 差引残額 265,149

差引残額265,149円を次年度に繰り越します。

収入の部

単位:円

項目	金額	備考
前年度より繰越金	265,149	
会費	66,000	2,000×33名
本部助成金	40,140	1,800×22名 540×1名
雑収入	2	郵便貯金利息
合計	371,291	

支出の部

単位:円

項目	金額	備考
事業費	98,500	総会会場費他 10,000
		会報発行等 13,000
		研修会・吟行会 40,000
		通信、印刷費他 32,000
		振込口座経費 3,500
東北大会費用	25,000	県負担金10,000 会員旅費補助15,000
他団体への助成	6,000	少年少女俳句大会
予備費	240,000	
雑費	1,791	
合計	371,291	

○事業報告

紙上句会 中村和弘先生による選と講評
参加者二十四名 七十二句
会報25号発行

○令和四年度予算

○事業計画

役員会 総会
吟行会 山形市 もみじ公園 予定
会報発行 二回 七月 十二月 予定

○役員（令和四年～五年）

会長 大類つとむ
副会長 畠山カツ子
事務局 佐竹伸一
幹事（事務局） 須藤 結
幹事（会計） 新野祐子
幹事（広報部長） 松浦廣江
幹事（広報） 堀 尚子
幹事（事業部長） 木嶋玲子
監事 柏崎青波
監事 東海林光代

改選に当たり、八十歳以上の人は重責から免除して若い人にバトンタッチすることになりました。

昨年はコロナ禍により、役員会、総会が紙面決済となり、一度も顔を合わせることができませんでした。今年は出席者が少ないのは残念でしたが、対面で会議を行うことができました。
なお、今まで総会の資料は別冊で、会員の皆様に送付していましたが、今年は会報に主な決定事項を載せることにいたしました。



〈編集後記〉

役員改選で協会役員は少し若い方にと背中を押されました。いつまでも甘えている訳にも行かなくなりました。

慣れない仕事に四苦八苦。幸いな事にベテランの事務局の方々の懇切丁寧な指導を頂き感謝しています。

先に立ち上げた「現代俳句の秀句を読む」のコーナーをはじめ、山形の会員のふれあいの場となる会報にしたいと思っています。皆様のご協力をよろしくお願いします。

（松浦廣江）

連日の猛暑に頭がぼーっとなりながらパソコンに向かっていました。エアコンをつけると頭の具合はあまり改善しません。これは単に年のせいなのかもしれません。

会員の高齢化が進む中、会報の果たす役割を改めて考えました。皆さんの俳句を通して刺激を受け、元気をもらって明日も歩き続けられれば良いと思います。

（堀尚子）

会報26号 令和四年七月発行

発行人 大類つとむ

発行所 山形県現代俳句協会

〒九九七、四二二七

尾花沢市中町五一二〇

〒九九〇、一五五二

朝日町常盤に五二一一

事務局 佐竹伸一